

越年稽古

『越年稽古』とは12月31日の深夜から翌1日にかけて稽古しながら新しい年を迎えますので、『年越し稽古』、『2年稽古』ともいわれます。初詣に大晦日の深夜に出かけて神社などで年を越すのを「2年参り」といいますが同じことです。

本塾では「本部・利府道場」が開設された平成14年の翌年から越年稽古を開始しました。

午後11時から0時15分まで稽古を行いますが、最初の年は14名の参加者でした。それから少しずつではありますが参加者が増え、現在では毎年30名前後が参加しています。

例年厳しい寒さに見舞われる越年稽古ですが、ここ数年は穏やかな天候が続いています。以前は雪が積もり塾生の来る前に寒さに震えながら何人かで駐車場の雪かきをしたこともありましたが、わずか20台くらいしか停まれない駐車場で、普段は「もう少し広ければいいなあ〜」と思う駐車場も、雪かきをする時は「なんて広いだろう」と感じてしまいます。ほんとに人間とは勝手なものです。稽古は午後11時からはじまります。外は当然寒いのですが稽古がはじまってしばらくすると体が熱くなり汗がでて窓を開けると外の冷たい空気がとても気持ち良く感じます。稽古前の寒い身体が嘘のようです。

午前0時が近づくといったん稽古を止め、服装、呼吸を整え、神棚の灯明に明かりを灯し、道場の電気を全て消して、ローソクの明かりだけで10分ほど黙想をします。道場のあかりを点けた時には、めでたく年が明けております。

全員で新年の挨拶をした後、0時15分まで稽古を続けます。

本塾の越年稽古の一番の特徴は、「歳旦祭（さいたんさい）」を執行することです。

「歳旦祭」とは、戦前の祝祭日の中の皇室祭祀令に基づく小祭日の一つで現在では新暦1月1日に宮中三殿で行われる年始を祝う祭祀です。元旦に、宮中および諸神社で、皇室ならびに国民の繁栄と農作物の豊作を皇祖・天神地祇に祈願する祭祀です。

塾長が正式な装束に着替え0時30分から始まりますが、祝詞の中に新しい年・月・日を寿ぎ、年神様に感謝し、神前に皇室・国家・国民を言祝ぎ、「天下泰平」「五穀豊穰」「万民豊楽」そして参加の塾生の住所氏名を読み上げ、それぞれの心願成就の祈願をします。参加者の中には稽古はもちろんですが塾長のご祈祷を受けたいがために参加する人もいます。塾長、指導員の代表が玉串を捧げ儀式は終了いたします。その後全員で年越しそばをいただき、午前2時頃解散いたします。帰るときには塾長のご祈祷を済ませた「破魔矢」をお土産に塾生の皆さんにお渡しします。

大晦日は『越年稽古』に参加して新しい年と一緒に迎えたいものです！





